

4. 土地区画整理事業、市街地再開発事業、道路、公園、駐車場等の公共の用に供する施設の整備その他の市街地の整備改善のための事業に関する事項

[1] 市街地の整備改善の必要性

砂川市は、北海道の2大都市である札幌市と旭川市のほぼ中間に位置し、両市を結ぶ北海道の大動脈であるJR函館本線および国道12号が市街地の形成に大きな役割を果たしてきた。

国道12号が通る線路西側は主に商店街および官庁街、東側は主に住宅街として栄えてきたが、東西を結ぶ交通の不便さと横断時の安全性については、本市における長年の懸案事項でもあった。

本計画では、平成18年度に完成した市営・道営住宅および地域交流センターを含むJR砂川駅東側地区と駅西側地区とを結ぶ最短ルートである南1丁目線の拡幅を行うことで、東西を横断する歩行・通行環境を改善するとともに、駅東西の交流人口の増加による中心市街地の活性化につなげるものである。

なお、商業者意識調査によると客の来店手段の半数を自動車利用が占め（P15参照）、まちの活性化については「駐車場整備」のニーズが最も多かったが（P25参照）、中心市街地区域内の既存市民駐車場をすべて無料で開放していることに加えて、平成19年1月にオープンした地域交流センターが最大250台収容の駐車場を整備、さらには東西をつなぐ自由通路（歩行者・自転車専用）が併設されたことから、駅西側の商店街へ足を運ぶ際の駐車場としての利用が可能となった。

さらには、平成24年度に改築終了する市立病院の立体駐車場が約650台収容できることから、市立病院を含めた中心市街地利用者の利便性向上と交通渋滞が緩和される。（P72参照）

また、住民意識調査の中では生活環境に望むこととして除排雪対策が最も多かったが、砂川市は北海道電力（株）の温排水を利用した流雪溝を北海道で最初に設置しており、冬期間路肩除雪後の堆積された雪のない歩道空間が確保され交通支障が解消された。さらに今後は、本計画における「コンパクトなまちづくり」を推進することで、中心市街地の流雪溝を活かした住み良い居住環境の提供が可能となる。

フォローアップの考え方としては、本基本計画が認定された後、事業開始以後の毎年度末において進捗調査を行い、状況に応じて事業の促進などの改善措置を講じる。

また、計画期間満了時点においても進捗調査のうえ、効果の測定を行う。

市立病院周辺の駐車場および路上駐車状況

「市役所裏」「市役所裏オアシスパーク方面」の路駐現況



市役所・市民会館・病院の各駐車場は満車状態。特に冬は、雪のために、駐車可能台数が減少する。



[2] 具体的事業の内容

(1) 法に定める特別の措置に関連する事業

該当なし

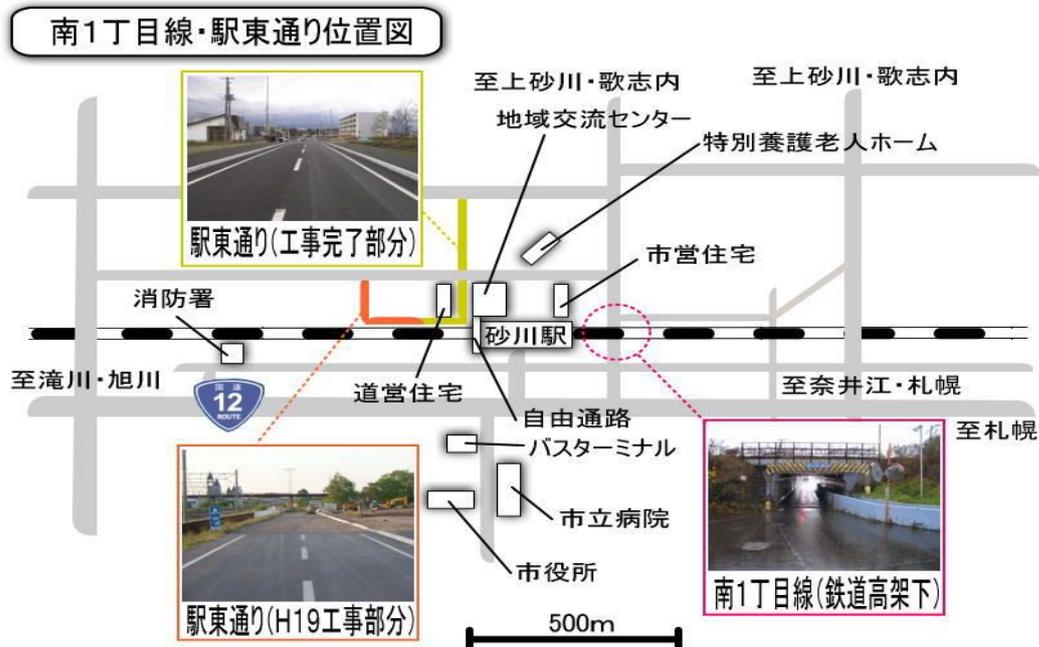
(2) ①認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した特例措置に関連する事業

該当なし

(2) ②認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した重点的な支援措置に関連する事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
事業名：駅東通り改良舗装事業 内容：駅東側地区の道路整備	砂川市	JR砂川駅東側に市営・道営住宅および地域交流センターが完成し、さらには特別養護老人ホームの移転改築によって周辺の道路整備が必要となったものであり、回遊性向上と賑わい創出を目標とする、中心市街地活性化のため必要な事業である。 車道幅員は 7.5mで全長 600mのう	支援措置の内容：道路事業	

実施時期：H16年度～H19年度	ち平成18年度までに380mの工事が終了。平成19年度は残り220mの工事を行う。(平成19年度分220mは改良のみ)	実施時期：H16年度～H19年度
------------------	---	------------------



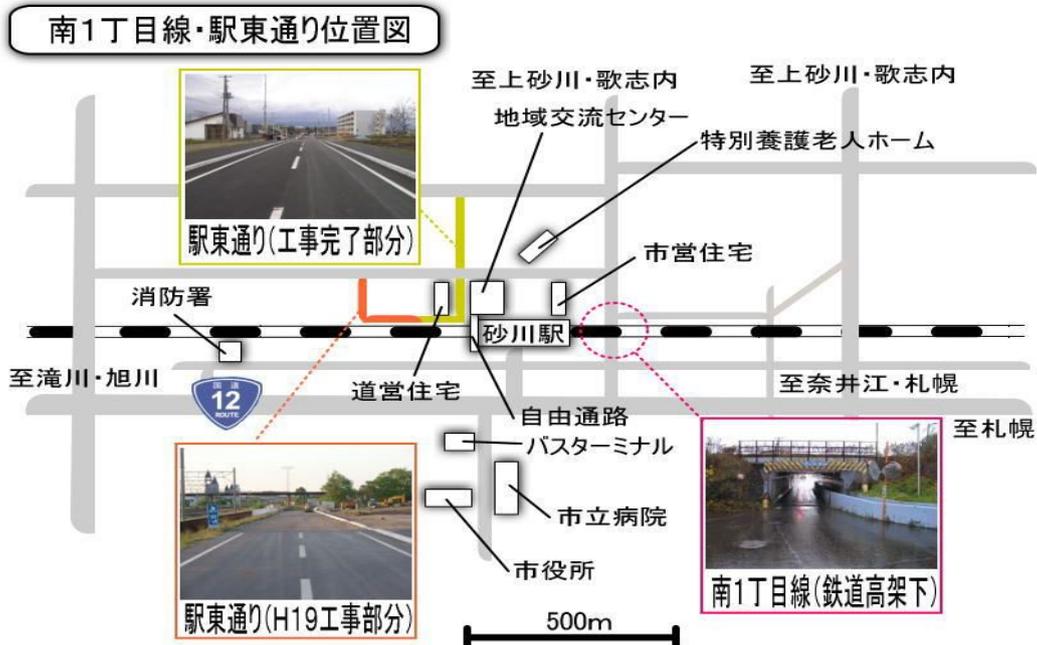
(3) 中心市街地の活性化に資するその他の支援措置に関する事業
該当なし

(4) 国の支援がないその他の事業

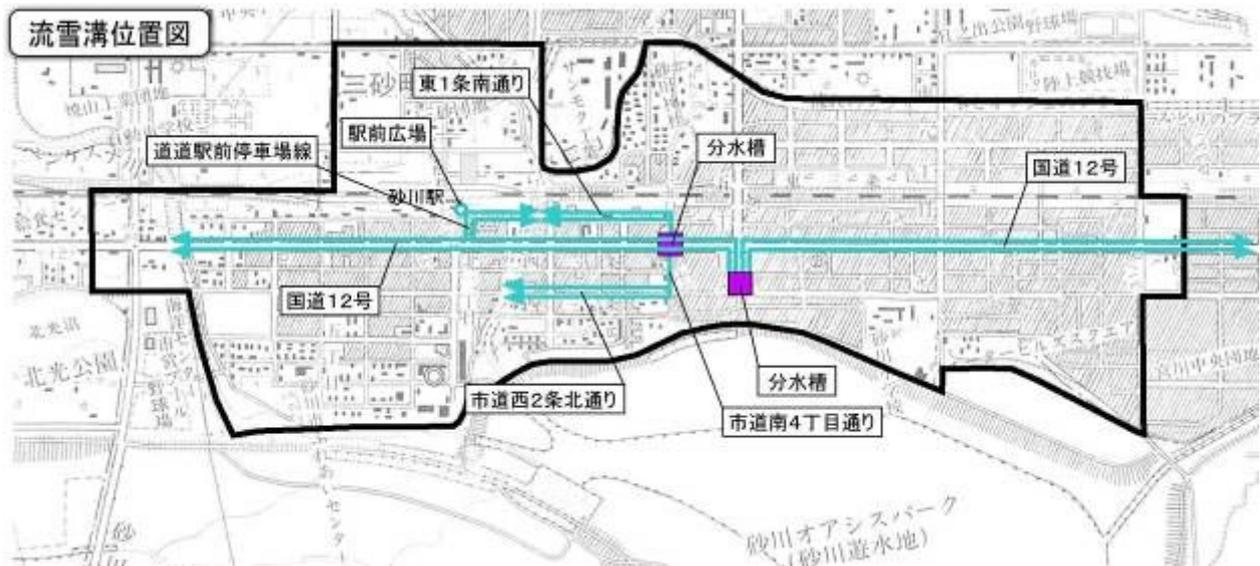
事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
事業名：南1丁目線拡幅事業 内容：鉄道を挟む市街地の東西を結ぶ狭小道路の改修	砂川市	JR砂川駅周辺の東西市街地を結ぶ最短ルートである南1丁目線の鉄道高架下部分は、1車線のため車両が交差できず、さらには高さが2.8mのため緊急車両(消防車)が通過できない状態にある。 本事業では、この狭小道路解消のため2車線に拡幅するとともに、鉄道の移設が難しいことから現在の高架下部分を掘り下げることによって高さを確保するものである。	なし	

<p>実施時期：H19年度～H30年度</p>		<p>JR砂川駅東側に市営・道営住宅および地域交流センターが完成し、さらには特別養護老人ホームが移転改築されたことから、南1丁目線の需要は今後更に増すことが予想される。東西市街地の交流人口の増加および安心して暮らせるまちづくりに寄与し、回遊性向上と賑わい創出を目標とする、中心市街地活性化のため必要な事業である。</p> <p>◎スケジュール概要 平成19年9月 調査測量 平成20年 市議会に南1丁目線拡幅事業諮問案の提出 ※諮問案が可となれば今後の整備工事についての予定を決定する。</p>		
-------------------------	--	--	--	--

〈再掲〉



事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
事業名：砂川市流雪溝管理運営事業 内容：市民の連携による良好な冬期市街地空間の確保 実施時期：S57年度～	砂川市流雪溝管理運営協議会	<p>砂川市の年間降雪量は過去 10m以上を記録するなど、北海道においても雪の多い地域であり、冬季間の雪対策は非常に大きな課題であった。これを解消するものとして、市道東1条南通り・市道西2条北通り・市道駅前広場・市道南4丁目通り・道道砂川駅前停車場線・国道12号に、北海道電力火力発電所から放流される温廃水を利用した流雪溝を北海道内でいち早く整備した。車道路側および歩道上の雪を流雪溝に投雪することにより、冬期間においても除雪後の堆積した雪のない良好な歩行空間が確保され、歩行者の安全確保、まち並み景観の向上、回遊性の向上等により、市街地の活性化に寄与している。</p> <p>この施設は、沿道住民等で設立された、「砂川市流雪溝管理運営協議会」により自主的に管理運営されている。市民の連携を主体とし、冬季間の良好な市街地空間を確保するものであることから、中心市街地活性化のため必要な事業である。</p>	なし	



流末施設

流雪溝から流れてきた雪や水は最終的に流末施設から河川に放流されます。砂川市の流末施設は、奈江豊平川、パンケ歌志内川、ペンケスナ川に設けられています。



取水施設

北海道電力砂川火力発電所にあるポンプ室から、φ500mmとφ300mmの2台の取水ポンプにより最大0.68m³/sの温排水を分水施設を経由して各流雪溝へ送水します。

流雪溝のしくみ

流雪溝は流水の運搬作用を利用し、投入した雪を河川に流出する施設です。砂川流雪溝は、北海道電力砂川火力発電所の発電タービンによって加熱された冷却水（温排水）を再利用しています。温水を用いることによって、流雪中の雪が解けやすくなる利点があります。



導水管

北電火力発電所よりφ800mmの導水管で南5丁目分水槽まで圧送し、さらに南4丁目分水槽までφ450mmの導水管で自然流下します。また、駅前分水槽へは国道流雪溝からφ450mmの導水管で圧送しています。

投雪口

地域住民の協力で、約10m間隔で設置してある投雪口に雪を投下することによって自然流下します。投雪に当たっては水の流れを確認し、一度にたくさん雪を押し込まないよう徐々に投入します。



設置前



設置後